

今週（2月27日から3月3日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、前週に引き続き邦銀業態を中心としたビッドサイドの資金調達ニーズが強い展開となった。無担保コールO/N物は、週を通して▲0.01～▲0.006%近辺での出会いが中心となった。極端に狭いレンジ内にビッドが集中した結果、加重平均レートは、27日が▲0.010%、28日から3月2日までは▲0.011%と、概ね横這い圏での推移となった。また3日は、週末要因から、レート水準を若干上昇させて調達する先も散見された。

ターム物は、積み期間を跨ぐ運用を控える動きも見られ、ショートターム物が中心となった。

日銀当座預金残高は、27日から3月1日までは概ね524兆円前後で小幅な増減となったが、2日に税・保険料の揚げ要因により518兆円台まで減少した。

金融調節では、2月28日には事前予定通り、4本目となる貸付期間5年(2023年3月1日～2028年3月1日)の共通担保資金供給オペ(全店・金利入札方式)が10,000億円でおfferされた。結果は、応札額30,245億円、落札額10,010億円、按分レート0.110%、平均落札レート0.133%、按分比率3.8%となり、按分、平均ともに前回比で上昇した。

また、3月2日には特例の国債補完供給オペが初めて実施された。結果は、利付10年国債367回が応札額485億円、落札額485億円、全取レート▲3.000%、平均落札レート▲3.000%となった。

●レボ市場

今週のGC T/N物は▲0.09～▲0.08%で推移した。27日のT/Nは月末跨ぎが影響してか、一時▲0.09%での出会いが見られたものの、その後は週を通して▲0.085～▲0.08%での出会いを中心に落ち着いて推移する展開となった。

SC取引の個別銘柄では、2Y431～444回、5Y145～155回、10Y358～366回、20Y179～183回、30Y66～76回、40Y14～15回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、3Mゾーンがマーケットで買い進まれ堅調に推移した。

3日に実施された3M物の入札は強い結果となり、その後のセカンダリーマーケットでも強含んで推移した。

短国買入オペは、28日に前回と同額の1,000億円でofferされ、全取利回較差+0.004%、平均利回較差+0.006%と無難な結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、電気機器・石油・鉄鋼業態等で大型発行が見られたものの、案件に乏しいマーケットとなった。

市場発行残高は、2月末時点で26兆7,815億円と前月末（27兆8,063億円）から減少したものの、2月27日時点では28兆円台まで積み上がっており、引き続き高水準で推移している。

発行レートについては、概ね0%から若干のプラス圏での出会いが中心となっている。一方でロングターム物の案件では、日銀による政策変更の警戒感からかレート水準にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レボレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
2/27（月）	27,423.96	0.500	136.15	△ 0.010	△ 0.087	5,239,800
2/28（火）	27,445.56	0.500	136.29	△ 0.011	△ 0.087	5,248,800
3/1（水）	27,516.53	0.500	136.36	△ 0.011	△ 0.086	5,235,500
3/2（木）	27,498.87	0.500	136.50	△ 0.011	△ 0.086	5,185,200
3/3（金）	27,927.47	0.500	136.60	△ 0.010	△ 0.087	5,168,000

来週（3月6日から3月10日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
3/6 (月)					1月の米製造業新規受注・出荷・在庫
3/7 (火)	2月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 1月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	30Y 9,000億円 3/8発行			1月の米卸売売上高 1月の米消費者信用残高
3/8 (水)	1月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 1月の景気動向指数速報(内閣府 14:00) 2月の景気ウォッチャー調査(内閣府 15:00)	TB6M 45,000億円 3/10発行			1月の米貿易収支 米ページブック 10-12月期のユーロ圏GDP確報値
3/9 (木)	日銀金融政策決定会合(1日目 14:00～) 2月のマネーストック(日銀 8:50) 10-12月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50)	TB3M 63,000億円 3/13発行	流動性供給 5,000億円 3/10発行	エネルギー 対策借入 7,600億円 3/20借入	
3/10 (金)	日銀金融政策決定会合(2日目 9:00～) 日銀総裁定例会見(15:30) 1月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 2月の企業物価指数(日銀 8:50) 1月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)				2月の米財政収支 2月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/6 (月)	300	▲ 3,000	▲ 2,700	国債買入 国債補完 CP買入	61,800 ▲ 200	17,700	79,300	76,600	TB3M発行▲63,000償還59,000 交付税借入▲12,000期日12,000
3/7 (火)	0	3,000	3,000				0	3,000	
3/8 (水)	500	▲ 9,000	▲ 8,500	全店共通	▲ 4,300		▲ 4,300	▲ 12,800	30Y発行▲9,000
3/9 (木)	▲ 500	3,000	2,500				0	2,500	
3/10 (金)	500	▲ 1,000	▲ 500				0	▲ 500	TB6M発行▲45,000償還39,800 流動性供給▲5,000 交付税借入▲11,450期日11,450
週 間 合 計	800	▲ 7,000	▲ 6,200	—	57,300	17,700	75,000	68,800	

3/6は日銀予想、3/7以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期間の終盤に差し掛かり、ビッドサイドの調達が積極化し易いものの、既にレートは高水準での推移となっている為、大きな変化は無く、今週と同水準かわずかに上昇する展開が想定される。債券レポGC T/N物は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、▲0.09～▲0.08%程度で概ね横這い圏での推移が見込まれる。短国市場は、8日に6M物、9日に3M物の入札実施が予定されている。また、7日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、8日にCP等買入オペが4,000億円で実施予定となっており、レート動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、8日に1月の国際収支、9日に10-12月期のGDP 2次速報、9日から10日に日銀金融政策決定会合、海外では、8日に10-12月期のユーロ圏GDP確報値、10日に2月の米雇用統計などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入